

平成29年 第3回佐原駅周辺地区複合公共施設基本設計検討委員会 会議概要

**開催日時：** 平成29年12月14日（木）午後1時から

**開催場所：** 香取市役所5階 大会議室

**出席者：** 〈委員〉

小森哲委員、大川裕志委員、菅谷長藏委員、圓藤弘典委員、香取清委員、宮永孝子委員、  
高木美枝子委員、齋田秀美委員、腰原幹雄委員、窪田亜矢委員、旭健一委員、大堀常昭委員

〈事務局〉

総務企画部企画政策課

株式会社佐藤総合計画

株式会社INA新建築研究所

**欠席者：** 高岡正人委員

- 議 題：**
- (1) 第2回検討委員会の会議概要について
  - (2) 第2回検討委員会における指摘事項等について
  - (3) 第2回佐原駅周辺地区複合公共施設市民ワークショップ実施結果について
  - (4) 各フロアの使われ方について
  - (5) 外観デザインの修正案について
  - (6) その他

**配付資料：** 会議次第

委員名簿

資料1：第3回佐原駅周辺地区複合公共施設基本設計検討委員会

資料2：第2回佐原駅周辺地区複合公共施設基本設計検討委員会 会議概要

## 議事内容:

### 1 開会

### 2 挨拶

#### 【腰原委員長】

本日はお忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。

前回、市長より概要と方針の説明があったかと思いますが、今回はより具体的な話に進んでいきますので、ぜひ皆さんの活発な意見交換をお願いできればと思います。

### 3 議事

(以降、腰原委員長が議長として議事進行)

#### 議題（１）第２回検討委員会の会議概要について

資料２「第２回佐原駅周辺地区複合公共施設基本設計検討委員会 会議概要」について事務局（企画政策課）から説明。

#### 【事務局（企画政策課）】

前回検討委員会の会議概要として委員の発言を要約して議事録を作成した。会議概要の記載内容に誤り等がないか確認の上、本会議概要を市のホームページ等へ公開することを予定している。

#### 【宮永委員】

私の発言について、一部記載がなかったようですが、

「公民館の建て直しということで大変、重視している。公民館は、市民にとって一番の開かれた場所であり、また、窓口となる。文化を育み、その発表する重要な役割をもった公民館というのを観念においていただきたい。」

「一番、市民が来やすく、開かれた拠点であるということが重要である。」

以上、２点について、追記をお願いしたい。

#### 【腰原委員長】

「階構成見直し案について」の箇所に補足を加えることとする。

#### 議題（２）第２回検討委員会における指摘事項等について

第２回検討委員会における指摘事項等について、資料２「第３回佐原駅周辺地区複合公共施設基本設計検討委員会」を基に、事務局から説明。

### 【事務局（企画政策課）】

第2回検討委員会での主な指摘事項は以下の3点。1点目が部屋の使い方がイメージできる資料の提示、2点目が建物ボリュームの分節化、3点目が外構計画の説明。1・3点目については、議題4「各フロアの使い方」にて、2点目については、議題5「外観デザインの修正案について」にて説明する。

継続課題については、①駐車場台数の増設（立体駐車場）と②用地買収範囲の拡大がある。①駐車場台数の増設については、当初計画していた敷地内180台と比較し、現状の計画では30台ほど下回る状況となっていることから、立体駐車場の整備位置等を具体的に想定した検討を開始したいと考えている。用地の関係もあることから、基本設計以降も視野に入れ、今後の外構計画の中で検討していく。②用地買収範囲の拡大については、複合公共施設のみならず、周辺道路の状況や歩行者動線など、周辺環境に視野を広げ、必要性を検証した上で、用地取得は重要であると認識している。ただし、地権者との調整、事業の整理と計画への位置づけ、予算化等、長期的な取り組みが必要となることから、来年度に測量などの調査について実施できるよう予算要求を行い、状況を整えている段階。

前回までに承認された項目については、5階建てから4階建てへの変更及び、各諸室の配置計画の2点となっている。尚、基本的な配置についての変更はないが、市民ワークショップでの意見や外観デザインの修正などにより、若干、平面計画を変更している。

### 議題（3）第2回佐原駅周辺地区複合公共施設市民ワークショップ実施結果について

第2回佐原駅周辺地区複合公共施設市民ワークショップ実施結果について、事務局から説明。

### 【事務局（企画政策課）】

11月18日（土）午後1時半より、香取市役所5階大会議室にて第2回佐原期周辺地区複合公共施設市民ワークショップを開催した。参加者は10代から70代の男女16名の市民で、3グループに分かれ「建物のイメージについて」「各施設の使い方について」の2つのテーマで議論を行った。

「建物イメージについて」では、3グループ共通で建物に佐原らしさを取り入れるべきとの意見でまとまった。その佐原らしさを計画のどこにどのように取り入れるかについては、主な意見として、佐原通りを抜けた先のアイストップの部分に佐原のモニュメント等を置いてはどうかという意見や、佐原通りの名称を佐原の町並み通りに改称するといった意見、また、その通りにアヤメ（造花）を植えたり、床に川の模様や伊能忠敬を想起させる測量の道具などを適度に表現するといったものがあつた。建物全体のイメージについては、建物の周囲は庭園のイメージにする、樹木は柳にするといった意見を頂いている。

「各施設の使い方について」において、1階の佐原通りに関しては、Aグループでは、国際会議場として使うといった、これからの国際化に向けた対応をする施設にすべきだという意見、また佐原通りにピアノを置き、簡単なロビーコンサートなどをできるようにしてはどうかという意見もあつた。また、高校生のグループからは、各文学部のパフォーマンスを披露できる発表の場として使えるよう

な通りにしてはどうかというような意見や、佐原通りにおいて、販売やカフェスペースに力入れてはどうかという意見が多くみられた。4階多目的ホールに関しては、ステージといった大掛かりなものは不要との意見と、廃校で余っているピアノを再利用し、ホールに設置するのはどうかといった意見があった。

その他、2～4階での施設の使い方に関しては、3階の展示スペースに各学校のイベント等のポスターを掲示できるようなスペースを設けて欲しいという意見、また高校生から、3階学習室のある階にも図書館で借りた本の返却口を設置して欲しいという意見も頂いている。

建物イメージについては、佐原らしさと和風になり過ぎないデザインが良いという意見、各施設の使い方については、佐原通りではイベント開催の他、通常時には休憩スペースとしての利用、また、子育て支援に預ける子どもを見ながらお茶をするといった他の施設との連携に関する意見、これらを第2回ワークショップの実施から抽出したキーワードと捉え、計画に採用していこうと考えている。

#### 【腰原委員長】

佐原らしさについて、もう少し具体的な話はでているのか。

#### 【事務局（企画政策課）】

全体的な景観も佐原らしさだが、建物の意匠で典型的な格子、瓦、土蔵の白壁、そういうものが佐原らしさでもあるというふうに、ワークショップの中では主張されていた。

#### 【窪田委員】

和風になりすぎないという意見には、町屋的なものとは違う大きな公共施設で佐原らしい建物とは何なのかというところを、時代を踏まえ、何らか1つは考えていかなければならないと思うが、1つ思うのは、水郷の地形や地質を活かした外構の緑などが建物とマッチしているかということが重要なことなのではないかと思っている。

#### 【腰原委員長】

ワークショップでは、昔の町並みや日本の伝統といったキーワードが飛び交いやすいが、思い浮かべている日本の伝統木造はおそらく同じようなものしか想像されないと思う。佐原らしさ＝佐原の個性というものを、もう少し引き出していかないと、どことも変わらない、歴史的町並みによくある建物になってしまう心配がある。もう少し市民の言葉を翻訳していく必要があるのではないか。

#### 【小森委員】

1人1人が持っている佐原らしさというのがあり、それを統一するのは難しいように思う。当然、町並みを最初に思い浮かべる人もいれば、小野川やお祭りが思い浮かぶ人もいる。それぞれが佐原らしさと思っていることから、あまり佐原らしさについて議論する必要はないのではないか。

**【腰原委員長】**

「佐原らしさ」を説明するのは難しい。もう少し具体的な話をしていけないのではないか。

**【圓藤委員】**

佐原らしさを何か物で表す、若しくはイメージを言葉を変えて具体化して取り入れやすい要素にする必要があると思う。例えば、落ち着いた場所の色遣いをしていくのか、それとも賑やかな雰囲気を出して行くのか、そういったテーマに合わせた配色であったり材質であったりというのでイメージづくりをしていくのはどうか。

**【大川委員】**

新しい建物が、小野川沿いの町並みに向かう前段としてのイメージを兼ね備えた建物とするのが良いのではないかと。おそらく佐原駅はそのようなイメージで作られているのではないかと。

**【宮永委員】**

江戸文化をいち早く取り入れたというのがこの佐原という地域。そうした江戸文化の町並みやこじやれた感じをあまり和風になり過ぎず近代的な要素を取り入れたイメージで取り入れていくのが良いのではないかと。色でいえば、町並みにあるような茶系、また水と緑の町でもあり、祭りの賑やかな色というのもイメージできる。

**【香取委員】**

佐原というと水郷であり、街中に小野川の柳や、水生植物園のアヤメがある。水や水郷、木造の建物、また祭りといったものを建物全体としてイメージできるものが佐原らしさのある建物ではないかと思う。

**【菅谷委員】**

小野川沿いの伝統建造物を目当てに観光に来る方々が多いため、それらがイメージできるものとするのが良いと思う。複合施設のため、何から何までイメージするのは難しいが、観光客が何を目的にして来るのかを考えて、それをイメージしたデザインが良いのではないかと。

**【腰原委員長】**

おそらく、ワークショップもこのような状況だったのではないかと。それぞれ佐原らしさというのは何となくあるが、何と云っていいのかわからないという状況。プロの目でワークショップを引っ張っていく必要がある。このような議論は、佐原あるいは香取市というのがどういうものかというのを市

民全員が考える機会でもある。この建物だけではなく、全体のことを色々と議論した上で、この建物というのはどうあるべきかというようなことを考え、現実につくり上げていくという意識を高めるとというのが、ワークショップの役目でもある。代表者である委員会の方々もそれぞれの立場で、この香取市、それからこの建物がどうあるべきか、この町がどうなっていくのかというのを一緒に考えていく必要がある。

#### 【圓藤委員】

この建物を木造で建てるということは可能なのか。

#### 【腰原委員長】

2000年に建築基準法が変わり、こうした大規模建築も木造で建てられるようになり、2005年頃に4階建ての木造ビルが建ち、2010年頃から比較的、公共施設でも木造が建設できるようになっている。しかし、コストの面がまだ追いつかない状況。コストをかけてでも、こういう建物をもっと積極的に進めようという舵をとるといっても、本来はどこかで議論しなければいけないことだと思う。そういう選択肢というのはあるのか。

#### 【事務局（企画政策課）】

木造で地場産のものを可能な限り取り入れるということになると、周辺の林業も活性化するという効果も狙えるが、やはり、市の財政事情も考慮すると、あえてコストがかかる方向へこの基本設計を向けていくというのは難しいと考えている。

#### 【腰原委員長】

現状ではそういう状況だとのこと。

佐原駅ができたときの経緯を知りたい。佐原の玄関としてどういうデザインにすべきかという議論があり、どういうコンセプトでできたというのがあると思われる。

#### 【窪田委員】

ちょうど佐原駅の計画時に、当時勤めていた工学院大学の学生と計画についての提案をしたことがあった。駅前広場と駅舎を繋げるような提案をしたが、JR側として一体として使うといったことを取り入れるのは難しいということだった。町の中全体で考えるということは重要だと考えており、この町の中の空き空間でできるものについては、町の中でやった方がいいのではないかと考えている。

公共施設を、事業費も逼迫している中で、ここでしかできないものに本当に絞り込むのが良い。結局ここに部屋をつくったとしても、そこで活動が生まれるかどうかというのは、運営者や活動する方々がいるかどうかであって、町の中の空いている建物や空き店舗でも対応は可能なのではないかと思う。

この施設を考えると、まちづくりと一緒に考え、町中をどうするのかという議論を、もう少し詰

めて考えると良いと思う。

#### 【腰原委員長】

前回、予算の問題から5階建てを4階建てにすることで床面積が減ったということは確かであり、それを補うに当たって、近隣他施設に関する説明を行った。町中にも空き建物等、様々な場所があるため、その辺とどう連携していくかということで、この建物と町との結びつきというようなことにも繋がると思う。逆に面積が小さくなったということをメリットとして、その足りなくなった分、本当はこんなことをやりたかったというのであれば、それをどうやって今後、町の中で展開していくようにできるかという話もあるように思う。そういう可能性も含め、今回の建物ではどこまでやっていかなければいけないのか、限られた予算の中でどうあるべきかというような議論が生まれることを期待したいと思う。

#### 議題（4）各フロアの使われ方について

各フロアの使われ方について、事務局（I N A新建築研究所）から説明。

#### 【事務局（I N A新建築研究所）】

構造の合理化検討による柱割の変更と、佐原らしさ等を含めたデザインを考慮した最新平面案について変更箇所を説明。

外構計画に関して説明。(仮称)佐原通りと小野川巡りルートとの交点部分の空間づくりに関する提案。小野川ギャラリーというものを設け、日常的な利用時は屋根付きの回廊により、車椅子駐車場や車寄せから雨に濡れないルートを確保し、観光客が利用する場合は、この回廊に配置した壁が展示パネルや情報発信コーナーの役割を担い、ここが観光の起点となるような空間として計画。

施設の使われ方に関して説明。3階は共用部を状況に応じて創作室・研修室との一体利用、また学習スペースとして利用できるイメージを提案。4階についても3階同様、外部テラスと各居室との様々な一体的利用方法を提案。

#### 【事務局（企画政策課）】

1点補足として、1階のレイアウトが前回示した平面計画から一部変更している。これは第2回のワークショップで出た子育て世代の意見を尊重し、フリースペースでお茶をしながら、子どもを見守りたいという要望に対応するためのもの。これに関して補足説明頂きたい。

#### 【事務局（I N A新建築研究所）】

佐原通りの子育て支援施設に面する側に、フリースペース（カフェスペース）を設けることで、ここから子どもが多目的広場や遊戯室で遊んでいる様子を見守りながら、休憩できるよう計画した。

**【香取委員】**

ワークショップにて60歳以上の方の意見の中に、エスカレーター設置の要望があったかと思うが、設置しないというのはどのような理由からか。

**【事務局（企画政策課）】**

エスカレーターの設置については、設備費及び維持管理費が高く、予算面から設置は難しいと考えている。

**【事務局（INA新建築研究所）】**

上り降りの最初と最後での滞留などにより、高齢者の方の事故にも繋がる恐れがある。安全面という観点からも、設置しない方が良いのではないかと考えている。

**【香取委員】**

これはほぼ決定か。

**【事務局（INA新建築研究所）】**

決定事項と考えている。

**【香取委員】**

承知した。

**【宮永委員】**

3階に配置している学習室を、2階の吹抜けを中止し2階の図書館フロアにまとめるのが良いのではないか。学習室で図書館の本を利用するのに不便かと思われる。また、多目的ホールについては、舞台の設置を希望していたが難しいようなので、ピアノの設置などは、少し高い台を設置して舞台のようにすることや可動間仕切りを設置し分割して利用することを希望する。

先ほど委員長から話があったが、町中の空き店舗等をライブや集会場として活用するというのは良い考えだと思う。

**【事務局（INA新建築研究所）】**

学習室付近に図書館から上がる階段を設けることで、図書館と学習室の行き来がしやすいよう配慮している。また、2階の吹き抜けについては、入口付近に階段・エレベーターと併設して設けることで、利用者にとって上部への動線を分かりやすくするとの意図で計画している。



**【宮永委員】**

承知した。建物に入ったときの圧迫感を軽減するため、また雰囲気づくりのための吹抜けだとも思う。

**【事務局（I N A新建築研究所）】**

また、多目的ホールの舞台については固定式ではなく可動式舞台の設置を検討している。可動間仕切りによるホールの分割利用については、移動観覧席との干渉や音響的な問題から、設置は困難と考えている。

**【宮永委員】**

承知した。

**【香取委員】**

千葉県の県立図書館3館を1箇所統合すると決定している。佐原の図書館計画においても安全対策や書架の高さなど、県立図書館の建て替えや方針との連携についてはどのように考えているのか。

**【事務局（佐原中央図書館）】**

書架の高さについては、児童用書架は低書架、一般書架については適正高さにて計画する想定。安全対策については、児童書架スペースに配置したプレイコーナーとお話室をガラスで間仕切るなど、外から保護者や職員が見渡せるような設えにて計画する。

**【香取委員】**

承知した。

**【腰原委員長】**

郷土資料室については、現状計画で2階に設置しているようだが、観光客が見たい資料なのではないかと思う。佐原通りは観光客が通る賑わいのスペースとなるかと思うが、ここから2階の郷土資料室まで誘導するようなアイデアはあるのか。

**【事務局（企画政策課）】**

郷土資料については、古文書、歴史資料であり、希少図書も含まれるため、観光客が見に来るよりは、専門の方がここにそういった資料があるのかをわかって訪れることが多いと思われる。

**【事務局（佐原中央図書館）】**

郷土資料については、図書館で保管している1冊しかない貴重な資料もあるため、保管庫をガラス

張りとして外部から見えるような設えとし、鍵管理にて保管をしている。希望があれば、住所・氏名・連絡先等を記載頂き、職員が随時貸し出す仕組み。

#### 【腰原委員長】

一般の方が見る郷土史や歴史的な町並みのインフォメーションセンターのようなものが伝建地区の入口に併設されることが多くなってきており、特に外国人観光客は、観光地へ訪れた際に、その地域の勉強をしてから町を歩くというのが主流となっている。観光情報スペースがそのような役割を担うのだと思うが、通路や人が自然に集まるところに佐原や香取の歴史情報を取得できる場所があると良いのではないかと思う。

#### 【窪田委員】

ヨーロッパの町に行くと、それぞれの町の模型が置いてあって、自分がどのように歩いてきたのだということが分かったり、次へ行く目的地を決めたり、かつて栄えていた場所が分かるようになったりということがある。そういったものが、この観光情報スペースにあるのも良いかと思う。また、先程の動線の話からすると、図書館へ行く際には、吹き抜け越しに佐原通りを見ながら上がっていく様子がうかがえるが、3階へ行く方々は初めからエレベーターを利用することが多いように感じる。3・4階の階段が建物奥の方に1箇所しかないため、そこの部分の繋がりが寂しいようにも感じる。

吹き抜けのあたりは、空間の質として豊かなのだろうということは想像できるが、そうした議論がこのメンバーでもできると良い。可能であれば建物の模型で話が出来ると議論が進みやすいと思う。風景を作り出す際に、実際に行われる活動・イベントを支える（運営する）方たちにどういうことが出来るのかを理解してもらえると、建築計画にもそれが反映され洗練されていくと思う。

小野川ギャラリーから南北に伸びる通りと道路との接点部分のデザインをどのようにしていくのか。また、多目的広場のバスの停車スペースを移動し、イベントスペースと広場を一体的に利用できるといった考え方もあるかと思う。外構に関する提案は次回となるのかもしれないが、現状で想定があれば教えて欲しい。

#### 【事務局（企画政策課）】

佐原通りや4階のテラスでの活動について、ワークショップにてどのような使い方をしたいか意見を出してもらったが、活発な議論にはならなかった。2度のワークショップを通して、利用したくなるような内装に仕立てることで活動を誘導していくなど、何か設備側で対応をしていく必要があるのではないかと感じている。また外構に関して、敷地の北側は明治10年の地籍図で見ると水田で市街化されていないのに対して、南側の道路は明治10年までであり、こうした歴史性を踏まえると、北と南で設えを変えたいと考えている。

**【腰原委員長】**

先程、町の中の空き空間でできるものについては、町の中でやった方がいいのではないかとの話があったが、何か具体的に思うことはあるか。

**【窪田委員】**

研修室系であれば、普通の部屋でよければ市役所から駅までの間にも使えそうな空き空間がありそうだと思う。

**【腰原委員長】**

研修室があればあるほど良いと思うものだが、実際にはあまり使われていなかったり、1箇所に集約されていると同じ時間の同じタイミングで使われた場合、人が集まり、ごみごみしてしまう。ただ点々とある方が良いという気がしている。町中に様々なスペースが生まれてくるという、将来の枠というのも考えておいた方が良いのではないか。検討委員会に限らず、まちづくりに関心をもって行動して欲しい。この施設だから使ってくれるわけではなく、本当はどこにあっても良いのであれば、使う気があれば使ってもらえるはずだと思う。

**【圓藤委員】**

1階子育て支援施設内交流スペースの上下足の行動範囲の考え方や下足置場の配置について検討頂きたい。また、キッズルーム等を計画する際に、変に子どもらしさを演出した内装にはして欲しくない。子ども達がくつろげる空間であったり、遊べる空間ということを念頭においた色彩計画に配慮して欲しい。

**【腰原委員長】**

町中の旧三菱銀行やこの施設の観光案内など、観光情報を扱う場所が町中に何箇所かあるかと思うが、それらの役割についての議論はされているのか。

**【大川委員】**

今回の施設は駅から降りて総合的な一番の入口となるため、佐原だけではなく、香取市全体の観光情報を網羅する必要があると考えている。

**【腰原委員長】**

計画敷地が佐原駅前にあるため佐原という名称がついているが、香取市の拠点でもあるため、そういった視点にて上手く使い分け、内容を充実させていくのが良いのではないか。

**【大川委員】**

3階学習室利用時に、図書館の図書を参考書として利用することが出来ないように感じるがどうか。

**【腰原委員長】**

本のセキュリティエリアはどのように考えているのか。

**【事務局（企画政策課）】**

3階の学習室に本を持ち込む場合は図書館で正規の貸し出し手続きをすることを想定している。学習室の利用形態には2種類あり、1つは図書館の本を参考に学習するもの、もう1つは、主に受験勉強などの勉強利用がある。図書館内にも閲覧席を十分確保することで、図書館の本を利用した学習にも対応し、学習室を改めて増設することで、勉強利用にも対応していると考えている。また、学習室と図書館に開館時間のずれがあることから、学習室は図書館とは別フロアとしている。

**議題（5）外観デザインの修正案について**

外観デザインの修正案について、事務局（I N A新建築研究所）から説明。

**【事務局（I N A新建築研究所）】**

市民ワークショップや検討委員会で出てきた外観デザインコンセプトに関する意見を整理した。ワークショップではセンスのよい外観や和風になり過ぎないデザイン、佐原らしいデザインといったものが挙げられる。検討委員会では、周辺の建物と比較して大きなボリュームになるため、出来る限り分節して見せていくのが良いのではないかとの意見が出ている。これらの意見から「現在の江戸優りを表現した佐原らしいファサードデザイン」をコンセプトに掲げ、以下の具体的な3つの考え方から外観を構成した。1つ目が佐原ゲート、2つ目が佐原らしい景観づくり、3つ目が建物を分節し小さく見せる。

**【腰原委員長】**

佐原の町並みは整っているわけではないと感じている。佐原の場合は商家町のため、各時代でその時代に発展をした人達が、その時代の先端の技術を使って建物をつくるということを繰り返してきた結果というのが、この佐原の重伝建なのではないか。パースのような格子など、普通の京町屋をイメージするような町屋もあれば、土蔵造りもあれば、れんが造もあれば祇園風もある。提出されたイメージパースはきれい過ぎるように思われる。整っていないが魅力があるといった、もう少し、様々な技術や建物があったことを表現する方が、佐原らしいのではないかと思われる。これだと日本中のどここの古い町並みの地域に建っていてもおかしくない。おかしくはないが余り特徴的ではないのではないか。

**【宮永委員】**

余りにもきちんとし過ぎているため、少し遊び心のある、あったかみのある、何か引き込まれてこの建物の中に入っていきようなことを考えて頂きたい。

**【窪田委員】**

2・3階も中間領域として、外部なのか内部なのかわからないようなテラスのようなものを、外から見てわかるような形で凹凸のような穴をあける感覚が重要かと考えている。そこに緑や人の活動があらわれているなど、人の気配が感じられるようなテラスが、外に向かって配置され、建物の形をテラスでくり抜いていくことでボリュームを崩していくと良いのではないかと。

**【腰原委員長】**

昔の伝統木造は必ず庇があるか、部分2階となっており、総2階は伝統木造に余りない。そのため1階のレベルで屋根に庇がついているかセットバックしているか、あるいは、1階は大きい2階は部分的にしか乗っていない構成をしており、下の固まりと上の固まりが同じボリュームとはなっていない。今回の計画案のように、2階と3階が一体となった固まりとして見えてくるのが違和感の原因だと思う。伝統的な木造建築のように、良い意味でがちゃがちゃしているスケールが温かみというものにも繋がってくるのではないかと。

**【大川委員】**

一体感がないというのが佐原の特徴の1つという感じがする。イメージとしてして、土蔵のイメージもこの中に取り入れられれば、町並みプラス土蔵というかたちでまとめられるのではないかとと思うがいかがか。

**【腰原委員長】**

ガラス張りが目立つが、閉じなければいけない場所も必要なのではないかと。閉じる部分には土蔵のイメージも取り入れられるのではないかとと思う。外観の色についてはいかがか。

**【圓藤委員】**

隠す部分については白くして欲しい。計画案は余りにも開放的で近代建築のようなイメージだが、もう少し複雑な、少しごちゃごちゃとしているイメージが良いのではないかと。

**【腰原委員長】**

佐原の町並みは、板壁も黒く塗っているイメージがあり、土蔵造りも黒い土蔵があったりと、何となく濃い色のイメージがあるのだが、白いイメージが強いのか。今まで出たような議論を踏まえ、もう一回、町を見直し、この色についての話をしていければと思う。

**【高木委員】**

車寄せ部分の屋根をもう少し外側にかけて、高齢者や障害者の方が、雨をよけながら乗り降りできる場所が1つできるのではないかと。

**【腰原委員長】**

外構はまだ駐車場計画等含めて、検討事項が多くあると思う。

佐原通りや小野川巡り等の名称については、どのように考えていくのか。

**【事務局（企画政策課）】**

今回のワークショップで市民の意見をいただく予定。使われ方が容易に想像できるような名称を考えていきたいと考えている。建物の名称については、竣工後に公募という形になろうかと思う。

**【腰原委員長】**

早めに共有しなければいけない言葉・名称は決めた方が良くと思う。

**【窪田委員】**

4階まで建てるとなると、上の方に眺望を楽しめるような場所を設けても良いのではないかと。周りからこの建物がどう見えているのかというのとあわせて、ここから周りがどう見えるのかというのを考えるのもおもしろいと思う。

**【腰原委員長】**

ここから伝建地区はどのように見えるか。

**【事務局（企画政策課）】**

NTTや旧東電ビルに視界を遮られてしまうかと思う。別の事業でドローンで町並みを撮影したが、上から見ても、眺望がすばらしいと言えるほどではない状況であった。

**【腰原委員長】**

いい見る場があれば良いが、見えないのに展望台をつくっても意味がない。確認だけしておくこと。その他、何かあれば。

**【圓藤委員】**

部屋の名称に漢字を使っていたきたい。今後の話になるかとは思いますが、ネーミングは非常に重要だと思う。

**【腰原委員長】**

日本語か英語名称かでもイメージが異なる。そのような議論についてもどこかでしていきたいと思う。

**4 その他**

**【事務局（企画政策課）】**

次回、第4回検討委員会については、1月22日（月）午後1時半から香取市役所7階全員協議会室での開催を予定。正式な開催日時等については、今月中に文書にて通知する。

**5 閉会**